

中田喜直 “金子みすゞ童謡歌曲集”

大野 恵美^a

^a 湘北短期大学保育学科

【抄録】

中田喜直の生涯での作品は3000曲に近いといわれる。多くの作品が日本人の愛唱歌として親しまれている。本論では晩年に作曲された、金子みすゞ童謡歌曲集“ほしとたんぼぼ”を考察し、金子みすゞの童謡詩（14作品）は童謡としてではなく歌曲として作曲されているのか、その音楽の真髓を探る。

【キーワード】

中田喜直 金子みすゞ 日本童謡集

1. はじめに

中田喜直の生涯での作品は3000曲に近いと言われる。童謡や叙情歌は年代を越え、日本人の愛唱歌として親しまれている。本論では、数多くの作品から歌曲組曲として晩年に発表された金子みすゞ詩による童謡歌曲集“ほしとたんぼぼ”を考察する。生誕百年、今もなお“みすゞ文学”として愛される童謡詩から選ばれ作曲された14作品は、童謡としてではなく歌曲として作曲されているのか…その音楽の真髓を探る。

2. 中田喜直と日本童謡集

中田喜直は、大正12年8月1日「早春賦」の作曲家・中田章の三男として東京渋谷区・恵比寿に生まれる。母は日本画家・奥村土牛の従姉こう、ま

さに芸術家の血が色濃く流れている家系である。

「日本のシューベルト」と称され、又「童謡作曲家」として昭和史の中で、童謡・合唱曲・歌曲・ピアノ曲という優雅なメロディーを生み続け、日本のクラシック音楽を海外に広め活躍した作曲家である。

父はオルガニスト・作曲家の中田章、兄はファゴット奏者・作曲家の中田一次である。音楽理論の基礎はすべて兄・一次から学んだ喜直は、10歳（昭和8年）で日本童謡集のなかから、三木露風の詩「静かな日」に作曲をし、次いで西條八十の詩「怪我」に曲をつける。

番町小学校、青山学院中等部に入学し、学校に行きながら週2回上野児童音楽学園に通い音楽のレッスンを受ける。その後、東京音楽学校ピアノ科に進む。ショパンの影響を強く受け、歌曲の伴奏を手がけることで自然にメロディーと伴奏の関係を学ぶ。手が小さいことからピアニストを諦め作曲の道へ・・・太平洋戦争が日本に翳りを落とす昭和18年9月卒業、10月には飛行学校に入隊す

<連絡先>

大野 恵美 m-oono@shohoku.ac.jp

る。軍隊生活で一番大切なものとして持ち歩いていたのは小学生時代から愛読していた「日本童謡集」(西條八十編)である。軍隊から復員後、本格的な作曲活動を開始する。

昭和22年に発表された代表的な歌曲集「六つの子供の歌」はこの童謡集から選ばれた、六つの詩から構成された連作歌曲集である。

〈うばぐるま〉(西條八十詩) 〈鳥〉(小川未明詩) 〈風の子供〉(竹久夢二詩) 〈たあんきぼーんき〉(山村暮鳥詩) 〈ねむの木〉(野口雨情詩) 〈おやすみ〉(三木露風詩)

この発表をきっかけに日本歌曲に新しい風を吹かせ次々と歌曲を生み出していく。

「日本童謡集」は中田のバイブルともいわれ、歌曲・童謡を創作する原点になる。この童謡集が発行されたのは大正7年、日本の童謡運動の始まりである「赤い鳥」創刊の年である。

〈赤い鳥〉創刊

明治の時代の唱歌は、子供の実生活とは異なる道徳感の強い唱歌が教育者によって作られていた。大正期に入り鈴木三重吉は児童文学詩「赤い鳥」を刊行する。「子どもたちの為に、芸術的な詩と音楽を提供しよう」

と文人・詩人・作曲家に呼びかけた。

詩人、北原白秋・西條八十・三木露風、作曲家、草川信・近藤秀麿・成田為三・弘田龍太郎・山田耕作など一流の芸術家が次々に賛同し、子ども文化に新しい風が広がり「金の船」「童話」「コドモノクニ」といった児童雑誌が刊行された。これらの雑誌には詩の投稿欄があり、新しい詩人や若い作曲家が育ち、後の昭和に入ってから最初の童謡黄金時代を迎えることになるのだが、この雑誌投稿者の一人が金子みすゞである。¹⁾

3. 詩人・金子みすゞ

童謡の隆盛期一大正後期から昭和初期にかけて彗星のように現れ、詩人・西條八十に「若き童謡詩人中の巨星」と絶賛された女性詩人が金子みすゞである。雑誌「童謡」を中心に90篇ほどの作品を発表し、1930年26歳の若さでこの世を去った。没してから52年後(1982)三冊の自筆の童謡集が見つかる。その後「金子みすゞ全集」として512篇の童謡は日本のみならず世界十カ国で訳され甦りを果たす。

金子みすゞ年譜：²⁾

西 暦	年 号	
1903年	明 36	4月11日／山口県大津郡仙崎に生まれる。本名テル。父金子庄之助、母ミチ、祖母ウメ、兄堅助の五人家族。父は代々綱元である石津家の出で近距離を結ぶ商い船で渡海船の仕事をしていた
1905年	明 38	2月に弟正祐が生まれる。父庄之助は妹(ミチ)の嫁ぎ先である、下関・上山文英堂書店の清国営口支店長として赴任(9月日露戦争終結)
1906年	明 39	2月／庄之助は清国営口にて不慮の死を遂げる。主を失った金子家は仙崎にて金子文英堂を営む
1907年	明 40	弟正祐は下関の上山文英堂店主・上山松蔵と伯母フジ夫婦の養子となる
1910年	明 43	瀬戸崎尋常小学校入学。成績優秀で六年間級長を務める
1914年	大 3	兄堅助は小学校を卒業、家業を手伝う(7月／第一次世界大戦勃発)
1916年	大 5	瀬戸崎尋常小学校卒業。4月／郡立大津高等女学校入学。同窓会誌「ミサヲ」に作文や社会見学の報告を載せる

中田喜直 “金子みすゞ童謡歌曲集”

1918年	大 7	兄堅助、家督を継ぐ。11月／伯母フジ、金子家で死去（11月／第一次世界大戦終結）
1919年	大 8	母ミチ、妹フジの夫である上山松蔵と結婚
1920年	大 9	3月／大津高等女学校卒業、金子文英堂を手伝う。以後大正13年までの3年間正祐はしばしば仙崎を訪れる
1921年	大10	8月／継父・上山松蔵が脳卒中で倒れる。10月／兄堅助が結婚
1923年	大12	4月／下関の上山文英堂に移り住む。親友に手づくり小唄集「こはれたびあの」を贈る 5月／下関市西之端町・商品館の上山文英堂で働く。弟正祐・上京 6月／ペンネーム「みすゞ」の名で雑誌に童謡を投稿 9月／投稿した雑誌四誌すべてに入選、雑誌“童謡”に「おさかな」「打出の小槌」、 “婦人倶楽部”に「芝居小屋」「婦人画報」に「おとむらい」「金の星」に「八百屋のお鳩」が載る 10月／弟正祐、関東大震災に遭遇し下関に戻る
1924年	大13	“童謡”の童謡欄に毎号、作品が掲載される。西條八十からも高く評価され全国の投稿詩人の憧れの存在となる。4月からの2年間、西條八十が渡仏この間雑誌への投稿を控え自選集“琅玕集”を手がける
1926年	大15	2月／上山文英堂の店員と結婚。3月／西條八十帰国。4月号の“童謡”に「露」特別募集第一席になる（7月／“童謡”廃刊）童謡詩人会会員に認められ、同会編“日本童謡集”に「お魚」「大漁」を掲載。11月／長女ふさえ誕生
1927年	昭 2	夏／下関駅で西條八十に会う。8月／祖母ウメ死去。11月／テルの夫は菓子と景品玩具の卸業「辰己屋」を始める。この後発病
1928年	昭 3	7月／弟正祐は上京し文芸春秋“映画時代”編集部就職。11月／“燭台”に「日の光」発表。この頃から夫に童謡創作と投稿仲間との文通を禁じられる
1929年	昭 4	夏から秋にかけて三冊の手書き童謡集「美しい町」「空のかあさま」「さみしい王女」を清書（一組は西條八十に、もう一組は弟正祐に託す）夏／下関市内で転居後病床に臥す
1930年	昭 5	2月／娘を自分の手元に置くことを条件に離婚、母のいる上山文英堂に移る。「ふさえを3月10日に引き取る」との手紙が元夫から届く。3月9日亀山八幡宮隣の写真館で最後の写真を写す。翌10日上山文英堂二階にて自死。享年26歳
1982年	昭57	金子みすゞ没後52年目6月三冊の手書き童謡集が見つかる（弟の正祐所蔵）
1984年	昭59	2月／“金子みすゞ全集”（JULA出版）が発行される
2003年	平15	みすゞ生誕百年の4月11日長門市仙崎に市立「金子みすゞ記念館」が開館する

4. 中田喜直の歌曲

童謡、ピアノ以外の中田作品の多くは、声楽曲である。「独唱曲」「合唱曲」は美しい自然な音楽、日本語の抑揚が活かされた旋律、豊富なハーモニーを持つピアノ伴奏…このすべてが一体となり構成されている。³⁾ 日本の歌曲というと、一つの音符に対して一シラブルの唱歌調のメロディー、又単調なメロディーとハーモニーで固定されたス

ローテンポのものが多かった。そこに鋭い感性で捉えられたユニークなリズム、詩としての価値をより際立たせる曲作りが「中田喜直」によって生み出された。ピアノは伴奏というより、言葉では表現できないメッセージを持つ「ピアノ部」として常にピアノスティックに表現されている。詩の表現ではなくその奥にある世界を読み取り、空虚な音がなく研ぎ澄まされるような美しい抒情を奏でる。

「中田の作品は一見して音が少ない。和音をべつたりうめた厚ぼったい音をだすことがない。それでいて隙間風がはいらないどころか、暖かい衣につつまれたような独特の雰囲気をかもし出す／そこが魅力なのだ」(音楽評論家、丹羽正明)⁴⁾

「独創的手法の中に、それまでの歌曲にみられないピアノスティックな伴奏の動きがある。フォー

レ、ドビュッシー、ラベル又ドイツ歌曲でのヴォルフやR・シュトラウスの手法は彼の中で十分に咀嚼され、彼の語法の中で吸収され、やがてオリジナルなかたちになって創造されたのである／彼が見よう見まねでなく“自分のもの”として中田音楽を創り上げたところに注目せねばならない」(歌手・音楽評論家・作曲家、畑中良輔)⁵⁾

〈歌曲・歌曲組曲〉主要作品⁶⁾

西暦	曲目	作詞家
1933年	歌曲： 静かな日	三木 露風
1940年～1944年	歌曲： 夕逍遥 湖 逝き母に捧ぐ 雪割草 水ぎわの 氷雨 椰子樹下に立ちて	堀口 大学 堀口 大学 久世 泉 長崎 透 中河 与一 中河 与一 大木 惇夫
1945年～1949年	歌曲組曲：6つの子の歌 1.うばぐるま 2.鳥 3.風の子供 4.たあんき ぼーんき 5.ねむの木 6.おやすみ 海四章 1.馬車 2.蟬 3.沙上 4.わが耳は 四季の歌 1.春の歌 2.夏の歌 3.秋の歌 4.冬の歌 歌曲： ・ 甃の上 ・ 桐のはな ・ すずしきうじな ・ またある時は ・ たんぼぼ ・ 木兎 ・ 鉛の腕 ・ 三つの短歌 ・ 夏の思い出	西条 八十 小川 未明 竹久 夢二 山村 暮鳥 野口 雨情 三木 露風 三好 達治 畑中 良輔 三好 達治 三好 達治 三好 達治 三好 達治 三好 達治 三好 達治 中桐 雅夫 中河 幹子 江間 章子

中田喜直 “金子みすゞ童謡歌曲集”

<p>1950年～1954年</p>	<p>歌曲組曲：マチエ・ポエティックによる4つの歌曲</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.火の鳥 2.さくら横ちょう 3.髪 4.真昼の乙女たち <p>歌曲：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋 ・未知の扉 ・彼方にはあらしが ・春 ・ねむの花 ・荒地の折り ・雪の降る街を ・ああプランタン無理もない 	<p>福永 武彦 加藤 周一 原條あき子 中村真一郎 宮本 正清 宮本 正清 宮本 正清 北川 冬彦 壺田 花子 大木 惇夫 内村 直也 サトウ・ハチロー</p>
<p>1955年～1959年</p>	<p>歌曲組曲：こどものための8つのうた</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.くるみのお家 2.ねえ蜂さん 3.雨ふり 4.うれしい象さん 5.匂いのある家 6.むこうのきしへ 7.かあさん はやくこい 8.おやすみなさい <p>歌曲：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(ちいさい秋みつけた) ・母私抄 ・バラード ・つくだ煮の小魚 ・子守唄 ・結婚 ・風よ水よ ・一草一花 ・立っている樹木 ・ひとり ・ふたりしずか ・山の椿 ・白鳥 ・回帰 ・若い手拍子 ・女 ・がらっぱの歌 ・初恋のおはなし ・だけどもね ・はじまってしまった恋 ・夜の心 ・心の窓に灯りを 	<p>志甫 昌治 志甫 昌治 清水たみ子 安藤徇之介 サトウ・ハチロー 宮内 徳一 高橋 俊雄 中井 昌子 サトウ・ハチロー 青山 鶏一 龍野 咲人 井伏 鱒二 深尾須磨子 山之口 獏 深尾須磨子 高見 順 高見 順 安西 冬衛 西脇順三郎 阪本 越朗 青山 鶏一 サトウ・ハチロー 不明 慶光院美沙子 宮沢 章二 岡谷恵美子 河野 典生 内山 登美子 横井 弘</p>
<p>1960年～1964年</p>	<p>歌曲組曲：木の匙</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小さな5つの歌 2. テーブルについて 3. つぶやき 4. 愛について 5. 生活について 	<p>寺山 修司</p>

	<p>6. やがて生まれてくる子のための子守唄 7. 城砦 8. 妻の童話 9. 夏がくると 10. 悲しくなったときは 11. 世界</p> <p>歌曲： ・サルビア ・あなたとわたし ・霧と話した ・こんなに気の滅入る夕方 ・むこうむこう ・ひなの日は ・岸部のふたり ・鴉 ・村祭 ・秋風よ ・淡雪降る日に ・逢引 ・三月には ・アマリリス ・若い日本</p>	<p>堀内 幸枝 堀内 幸枝 鎌田 忠良 堀内 幸枝 三井ふたばこ 堀内 幸枝 武村 志保 町田志津子 堀内 幸枝 堀内 幸枝 長崎 透 辻井 喬 内山登美子 長崎 透 橋本 竹茂</p>
1965年～1969年	<p>歌曲組曲：愛をつげる雅歌 1. あこがれ 2. よびごえ 3. ときめき 4. さまよい 5. はばたき 6. おとずれ 日本のおもちゃうた 1. あねさまにんぎょう 2. ヨーヨー 3. お手玉とおはじき 4. 海ほうずきと少年 5. 竹とんぼ 6. おまつりはどこ 7. 紙風船</p> <p>歌曲： ・うつくしい夕日のなかに ・こんなにかるくなって ・タマゴ ・ゆく春 ・柿の実 ・おかあさん</p>	<p>木原 孝一</p> <p>岸田 裕子</p> <p>関根 栄一 桜井 勝美 青田 光子 小野 芳照 堀内 幸枝 堀内 幸枝</p>
1970年～1974年	<p>歌曲： ・瘦せ犬のしっぽ ・秋の蝶 ・公園へいこう ・ちょうちょ ・春のシュプール ・鳩笛の唄 ・くりやの歌 ・博多人形によせて</p>	<p>勝 承夫 内山登美子 間所ひさ子 間所ひさ子 龍野 咲人 清水みのる 平井 多美子 清水みのる</p>

中田喜直 “金子みすゞ童謡歌曲集”

<p>1975年～1979年</p>	<p>歌曲組曲：魚とオレンジ 1. はなやぐ朝 2. 顔 3. あいつ 4. 魔法のリング 5. 艶やかなる歌 6. ケッコン 7. 祝辞 8. らくだの耳から (魚とオレンジ)</p> <p>歌曲： ・亡き母に ・ひとりのおとこのこ ・だから その海をみない ・雪うさぎ</p>	<p>阪田 寛夫</p> <p>新川 和江 おうちやすゆき 山下 千江 堀内 幸枝</p>
<p>1980年～1984年</p>	<p>歌曲： ・物語 ・パン ・きりん 1968年3月・1981年5月改作 ・かめどんのこうら ・はるとあきのにほん ・花 ・ピアニシモの秋</p>	<p>三好 達治 三好 達治 稗田 幸子</p> <p>小林 純一 矢崎 節夫 高田 敏子 山川 啓介</p>
<p>1985年～1989年</p>	<p>歌曲： ・平和の歌をさくときは ・合歓の花がさいたら ・鏡の浦 ・かぐやの里 ・寒椿咲いた ・そのうたはどこに ・星は何処へ行くのでしょうか ・ポナポルサーノ ・若い街から</p>	<p>宮本 泰夫 松本彦三郎 小高 熹郎 松本 隆 松本 隆 阪田 寛夫 伊集院 静 佐藤 素子 菅原 志郎</p>
<p>1990年～1994年</p>	<p>歌曲組曲：ほしとたんぼぼ 1. つゆ 2. こだまでしょうか 3. みんなをすきに 4. わたしとことりとすずと 5. まゆとはか 6. さびしいとき 7. たいりょう 8. おさかな 9. いぬ 10. つち 11. つもったゆき 12. わらい 13. ころろ 14. ほしとたんぼぼ</p> <p>野の花によせて 1. もしも私が 2. かたばみ 3. カタクリ 4. もじずり</p>	<p>金子みすゞ</p> <p>佐藤 恭子</p>

	5. チューリップの花が好きだった頃 6. 薔の臺 7. 伶人草 8. 北の街に鐘は鳴る 9. 歌をください 10. ほのかにひとつ 11. さくら 12. すみれの季節 13. わたしのたから 14. かげ 15. 恋は蒲公英	阪田 寛夫 渡辺 達生 北原 白秋 関原 斉子 江間 章子 よこやまさとみ 田中 巧 なかにし 礼
1995年～1999年	歌曲： ・さよならはいわないで ・ここはふるさと	鶴岡 千代子 こわせ たまみ
2000年～	歌曲： ・おやすみなさい美しい夢をみて	江間 章子

歌曲104曲、歌曲組曲11作品(79曲)の中で唯一、童謡歌曲集として作られているのが“金子みすゞ”の童謡詩からなるものである。

〈「金子みすゞ童謡 ほしとたんぼぼ」作品考察〉

詩	拍子	速度	調	表示
つ ゆ	$\frac{4}{4}$	♩ = 92位	D	
こだまでしょうか	$\frac{4}{4}$	♩ = 88位	F	
みんなすきに	$\frac{4}{4}$	♩ = 100位	E	
わたしとことりとすずと	$\frac{4}{4}$	♩ = 126位	F	
まゆとはか	$\frac{4}{4}$	♩ = 92位	F	
さびしいとき	$\frac{3}{2}$	♩ = 69位	f	しずかに気持ちをこめて
たいりょう	$\frac{4}{4}$	♩ = 108位	G	げんきよく
おさかな	$\frac{6}{8}$	♩. = 104位	a	やさしく
いぬ	$\frac{4}{4}$	♩ = 76位	E	静かに落ち着いた気持ちで
つち	$\frac{4}{4}$	♩ = 96位	E	力強く
つもったゆき	$\frac{4}{4}$	♩ = 80位	a	
わらい	$\frac{6}{8}$	♩. = 46位	Des	静かに美しく
こころ	$\frac{4}{4}$	♩. = 80位	Des	
ほしとたんぼぼ	$\frac{4}{4}$	♩ = 72位	Ges	自由に

金子みすゞ詩

作曲の特徴

• つゆ

だれにも いわずに おきましょう

あさの おにわの すみっこで
はなが ほろりと ないた こと

もしも うわさが ひろがって
はちの おみみに はいったら

わるい ことでも したように
みつを かえしに ゆくでしょう

- ・ 歌のメロディーは語るように自然な流れを持つ。後半の和音が心情を効果的に表現し、歌曲的な歌唱が求められる。
- ・ ピアノ伴奏の前奏は「つゆ」をイメージする静かなスタックカートで透明感のある繊細な導入を促す。(楽譜①)
- ・ ペダルの残響は重要で柔らかい空気感を漂わせる。(楽譜②)
- ・ 12小節(3、4拍)、14小節(3、4拍)は詩の中にはない心の眩きが音で歌われている。(楽譜③)

つゆ

Dewdrops

金子みすゞ 作詩

中田喜直 作曲

©1991 by edition Happy Echo, Tokyo, Japan. International Copyright Secured.
この音楽著作物の全部または一部を無断で複製（コピー）することは、著作権の侵害にあたり、著作権法により罰せられます。

• みんな すきに

わたしは すきに なりたいな
なんでも かんでも みいんな。

ねぎも トマトも おさかなも
のこらず すきに なりたいな

うちの おかずは みいんな
かあさまが おつくりなつたもの。

わたしは すきに なりたいな
だれでも かれでも みいんな

おいしゃさんでも からすでも
のこらず すきに なりたいな

せかいの ものは みいんな
かみさまが おつくりなつたもの。

- ・ 童謡作品を思わせるイントロは2小節と短い。その中に軽やかに浮か立つ童心を感じさせる。(楽譜①)
- ・ 歌のメロディーははとともシンプルで多くの童謡作品と同様、言葉のイントネーションに無理のないメロディーが進行している。(楽譜②)
- ・ 伴奏型の一部には分散和音の上行形を使い明るく流れる感情をピアノ伴奏でも表現している。(楽譜③)
- ・ 下線部「かあさまが」「かみさまが」のメロディーは伴奏右手で追うように奏でられる。詩の大切な言葉をピアノ部が担っている。(楽譜④)

みんなを すきに
To Like Everything

金子みすゞ 作詩

中田喜直 作曲

© 1991 by adobe Happy Kaku Tokyo Japan International Copyright Society
この楽譜集の全頁または一部を複製して無断で複製（コピー）することは、著作権の侵害にあたり、著作権法により罰せられます。

・わたしと ことりと すずと

わたしが りょうてを ひろげても
おそらは ちっとも とべないが
とべる ことりは わたしのように
じべたを はやく はしれない

わたしが からだを ゆすっても
きれいな おとは でないけど
あの なる すずは わたしのように
たくさん うたは しらないよ

すずと ことりと それから わたし
みんな ちがって みんな いい

- ・1番と2番は爽やかなメロディーが軽快に繰り返される。他の歌曲(例:六つの子どもの歌「おやすみなさい」)にもみられるグリッサンド(下線部分)が歌唱表現を豊かに広げている。(楽譜①)
- ・詩の最後の二行はテンポが遅くなり、この詩のテーマを丁寧に伝えている。(楽譜②)
- ・ピアノ伴奏に7連符、9連符のピアニスティックなパッセージが置かれ情景の広がりがある。ユニークなパーカッションをイメージさせるようでもあり、4拍子に躍動感を持たせている。(楽譜③)

わたしと ことりと すずと

I and Birds and Bells

金子みすゞ 作詩

♩=126 ③

1. わたし がりょうてを ひろげても おそらは ちっ と も
Wa-ta-shi ga ryō-te o hi-ro-ge-te mo O-so-ra wa chit-to-mo
2. わたし が からだを ゆすっても きれいな お と は
Wa-ta-shi ga ka-la-da o yu-su-te mo Ki-le-i-na o-to-wa
とべない が To-be-nai ga
de-nai-ke-do A-no-na-lu 7 su-zu wa wa-ta-shi no yō ni

じべたを はやく はしれない
Ji-be-ta o ha-ya-ku wa ha-shi-le-na-i
たくさん なる は しらないよ
Ta-ku-san-na u-ta wa shi-la-na-i yo

1. *rit.* *mp* おそく、やさしく
すずと ことりと それから わたし
Su-zu-to ko-to-ri to so-le-ka-lwa-ta-shi

2. *cresc.* *rit.* *a tempo*
みんな ちがって みんな いい
min-na chi-ga-i-te min-na i-i
cresc. *rit.* *mp* *dim.* *pp*

©1991 by cdbase Happy Echo. Tokyo, Japan. International Copyright Secured.
この音楽著作権の所有または一部を権利者に無断で複製(コピー)することは、著作権者の許可にあり、著作権法により罰せられます。

• まゆ と はか
(いいこは とべるのよ)

かいこは まゆに
はいります。
きゅうくつそうな
あの まゆに。

けれど かいこは
うれしかろ、
ちょうちょ になって
とべるのよ。

ひとは おはかに
はいります。
くらい さみしい
あの はかへ。

そして いいこは
はねがはえ
てんしに なって
とべるのよ。

- 優しく包まれるような温かいメロディーは詩の深い部分が読みとられている。この世の位置から別の次元へのよみ返りを素直に言葉にのせた旋律である。
- 詩の8行を一括りに進行するメロディーは、*mf*→*mp*→*p*→*pp*と指示される。これは有形の存在から無形の存在に向かう生命を暗示している。(楽譜①)
- 歌唱部分のピアノ伴奏は、音数をあえて少なくし歌詞を語りのように充分表現するために無駄な音がない。(楽譜②)
- 13小節目・23小節目・25小節目は歌唱部分の“とべるのよ”の歌詞を受けた旋律(パッセージ)をおくことで言葉の描写を広げている。(楽譜③)

まゆと はか

(いいこは とべるのよ)

The Cocoon and the Grave (Good Girls Can Fly !)

金子みすゞ 作詩

中田喜直 作曲

♩=92位

mp *crec.* *mf* *dim.*

① *mp*

② *mf* *mp*

p

pp

③ *pp*

Lyrics: まゆと はか (いいこは とべるのよ)
かいこは まゆに はいります きゅうくつそうな あのまゆに
Ka-i-ko wa ma-yu ni Ha-i-li-ma-su Kyū-kutsu sō na A-no ma-yu ni
けれど かいこは うれしかろ ちょうちょ になって
Ke-le-do ka-i-ko wa u-re-shi-ka-ro Chō-cho ni na-tte
とべるのよ
To-be-lu no-yo

mf

Lyrics: ひとは おはかに はいります くらい さみしい あの はかへ
Hi-to wa o-ha-ka e Ha-i-li-ma-su Ku-ra-i sa-mi-shi-i A-no ha-ka e

mp *dim.*

Lyrics: そして いいこは はねがはえ てんしに なって とべるのよ
So-shi-te i-i-ko wa Ha-ne ga ha-e Ten-shi ni na-tte To-be-lu no-yo

pp

③ *pp*

© 1991 by edition Happy Echo, Tokyo, Japan. International Copyright Secured.
この音楽著作権の完全または一部を無断で複製(コピー)することは、著作権者の許可にあたり、著作権法により罰せられます。

・さびしい とき

わたしが さびしいときに
よそのひとは しらないの

わたしが さびしいとき
おともだちは わらうの。

わたしが さびしいとき
おかあさんは やさしいの。

わたしが さびしとき
ほとけさまは さびしいの。

- ・ 曲全体の調子は $\frac{3}{2} \Rightarrow \frac{4}{4} \Rightarrow \frac{3}{2} \Rightarrow \frac{4}{4} \Rightarrow \frac{3}{2}$ 拍子と入れ替わる。詩2行の歌唱の間に $\frac{4}{4}$ (1小節) 拍子の間奏が入る。後半の2行ずつの歌詞の間は、 $\frac{3}{2}$ 拍子のまま最後まで拍子の変化はない。これは詩のなかにある、相対するものを受け入れ寄り添うものへ近づくとという「心」の位置が、詩の前半4行・後半4行で変化していることを拍子の変化で示している。(楽譜①)
- ・ 歌は、高音部での *pp* や三連符といった高度なテクニックが要求される歌曲風である。(楽譜②)
- ・ ピアノ伴奏は2度や変化音の多い神秘的な和音で奏でられるが決して重くない。曲の伴奏に(手を合わせる)との指示があり、 $\frac{3}{2}$ 拍子でありながら念仏を唱えるがごとく $\frac{6}{4}$ 拍子の流れで終始する(楽譜③)

さびしいとき

Whenever I feel lonely

金子みすゞ 作詩

中田嘉徳 作曲

① *J. = 69* しずかに、気持をこめて *p* *pp* *mf* *cresc.* *f*

わたしがさびしいときに よそのひとは
Wata-shi gasa-bi-shi-i to-ki ni Yo-so no hi-to wa

しらないの わたしがさびしいときに
shi-la-na-i no Wata-shi gasa-bi-shi-i to-ki ni

おともだちは わらうの
O-to-mo-da-chi-wa wa-ra-u no

② *mp* *p* *mp* *p* *mp* *p*

わたしがさびしいとき おかあさんは やさしいの
Wata-shi gasa-bi-shi-i to-ki ni O-ka-a-san wa ya-sa-shi-i no

わたしがさびしいときに ほとけさまは
Wata-shi gasa-bi-shi-i to-ki ni Ho-to-ke-sa-ma wa

③ *pp* *a tempo* *pp* *a tempo* (手を合わせる)

さびしいの
Sa-bi-shi-i no

©1991 by edition Nagayo Eiko, Tokyo, Japan. International Copyright Secured.
この音楽著作権の所有または一部を権利者に無断で複製（コピー）することは、著作権の侵害に当たり、著作権法により罰せられます。

・たいりょう

あさやけ こやけだ
たいりょうだ
おおばいわしの
たいりょうだ。

はまは まつりの
ようだけど
うみの なかでは
なんまんの
いわしの とむらい
するだろう。

- ・表語には“元気よく”とあるが、音楽は長調・短調・長調、*f*から*pp*の移行を繰り返しながら進行する。
- ・歌詞の前半と後半の、陽と陰はごく自然に旋律の流れに溶け込んでいる。
- ・歌唱の後奏部分に「詩」にはない「たいりょうだ」が4回繰り返され、*f*→*mp*→*p*→*pp*へ移行し、現実と幻想を表現している。(楽譜①)
- ・伴奏は分散和音・三連符の上行形で「たいりょう」の情景に勢いをつけている。間奏の4小節は“悲しそうに”とあるように“とむらい”の言葉をうけて音楽描写がされている。(楽譜②)
- ・見えていること、見えていないことの明と暗を歌とピアノが融合しながら音楽が展開している。
- ・後奏はピアノスティックな連符によるパッセージで終止する。(楽譜③)

たいりょう
A big catch

金子みすゞ 作詩

中田喜直 作曲

②げんきよく ♩108位

あさやけこやけだ
あさやけこやけだ
たいりょうだ おおばいわしのたいりょうだ
Tai-ryo-da O-o-ba-i-wa-shi no Tai-ryo-da
速く感じて(歌わなくてもいい)

1.
たいりょうだ たいりょうだ はまはまつりの
Tai-ryo-da tai-ryo-da Ha-ma wa ma-tsu-ri no
ようだけど うみのなかでは なんまんの
yo-da ke-do u-mi no na-ka de-wa Nan-ma-n no

② a tempo
悲しそうに
悲しそうに
①
③

© 1991 by edison Happy Fels, Tokyo Japan. International Copyright Secured.
この音楽著作権の全部または一部を無断で複製・転載・コピーすることは、著作権者の許諾なくしては、著作権法により罰せらるゝ。

• おさかな

うみの さかなは かわいそう

おこめは ひとから つくられて
うしは まきばで かわれてる
こいも おいけで ふを もらう

けれども うみの おさかなは
なんにも せわに ならないし
いたずら ひとつ しないのに
こうして わたしに たべられる

ほんとに さかなは かわいそう

- 歌のメロディーは、生きるものを慈しむようにやさしく $\frac{6}{8}$ 拍子で歌われる。言葉のリズムを16分音符で刻むことで、歌全体が重くならず、あえて童謡のように淡々と音がこぼれている。歌唱部メロディーのA→E→A、5度の動きが印象的である。(楽譜①)
- 伴奏中間部には和音が多く使われ、歌の静かさに対し、感情の高揚が現れている。(楽譜②)
- 左手のメロディーの動き又低音が、深い心の様子を音として支えている。(楽譜③)

おさかな
The Poor Fish

金子みすゞ 作詩

中田 嘉徳 作曲

① ♩ 104位 やさしく

うみの さかなは かわいそう
U-mi no sa-ka-na wa ka-wai-so-u

おこめは ひとに つくられる うしは まきばで かわれてる
Oko-me-wa hi-to ni tsu-ku-ra-re-ru U-shi wa ma-ki-ba-de ka-wa-re-te-ru

②
こいも おいけで ふを もらう けれども うみの おさかなは なんにも せわに
Ko-i mo oi-ke-de fu o-mo-ra-u Ke-le-do-mo u-mi no o-sa-ka-na-wa Nan-ni-mo se-wa ni

③
かわい ぞう
ka-wai-zo-u

ならないし いたずらひとつ しないのに こうして わたしに たべられる
na-ra-na-i shi i-ta-za-ra hi-to-tsu shi-nai no-ni kou-shite wa-ta-shi ni ta-be-ra-re-ru

ほんとに さかなは かわい ぞう ほんとに さかなは
hon-to ni sa-ka-na wa ka-wai-zo-u hon-to ni sa-ka-na wa

かわい ぞう
ka-wai-zo-u

poco rit.

© 1991 by cdbnet Happy Fish, Tokyo, Japan. International Copyright Secured.
この音楽著作権の所有または一部を権利者に無断で複製（コピー）することは、著作権の侵害に当たり、著作権法により罰せられます。

中田喜直 “金子みすゞ童謡歌曲集”

• いぬ

うちの だりあの さいた ひに
さかやの クロは しにました。

おもてで あそぶ わたしらを
いつも おこる おばさんが
おろおろ ないて ありました。

そのひ がっこで その ことを
おもしろそうに はな してて
ふっと さみしく になりました。

- 歌のメロディーは話しをしているように自然な音はこびである。〈静かに落ち着いた気持ちで〉と表語のとおり、音は言葉を包み無理な主張がない。
- 歌詞の“おろおろ”“ふっと”にのせた音はまさに言葉そのもののようである。(楽譜①)
- 伴奏はイントロも含め、曲の前半は音数が少ない。左手に子どもの悪戯っぽさが出ていたり、右手に“おろおろ”の言葉をうけた心の様子が示されていたり、伴奏の中での音の遊びがみられる。(楽譜②)

いぬ
A Dog
金子みすゞ 作詞 中田喜直 作曲

② $\text{♩} = 76$ 位 静かに、落ち着いた気持ちで

うちの だりあの さいた ひに さかやの クロは しにました
U-chi no da-li-a no sa-i-ta hi ni Sa-ka-ya no ku-ro wa shi-ni ma-shi-ta

おもてで あそぶ わたしらを
o-mo-te de a-so-bu wa-ta-shi-ra o

いつでも おこる おばさんが おろおろ ないて ありました
I-tsu-de-mo o-ko-lu o-ba-san ga O-ro-o-ro na-i-te o-li ma-shi-ta

そのひ がっこで
So-no hi gak-ko de

そのことを おもしろそうに はなしてて
so-no-ko-to o O-mo-shi-ro so-ni ha-na-shi-te te

ふっと さみしく になりました
Fu-t to sa-mi-shi-ku na-i ma-shi-ta

© 1991 by edition Happy Echo Tokyo Japan. International Copyright Secured.
この音楽著作権の全部または一部を無断で複製（コピー）することは、著作権者の許に反し、著作権法により罰せられます。

• つち

こっつん こっつん
ぶたれる つちは
よい はたけに なって
よい むぎ つむよ

あさから ばんまで
ふまれる つちは
よい みちになつて
くるまを とおすよ

a ぶたれぬ つちは
ふまれぬ つちは
いらぬ つちか
(※)

b いえいえ それは
なの ない くさの
おやどを するの
(※)

- ・詩の前半8行と後半6行が、和声的に同じ進行になっており、前半の4行のみ繰り返しで歌われる。
- ・詩のa,bはそれぞれ3行で構成されているが、言葉のない4行目(※)は間奏として存在する。(楽譜①)
- ・歌のメロディーは童謡のようにわかり易くシンプルである。(楽譜②)
- ・ピアノ伴奏はアクセント、スタッカートで打たれる土、踏まれる土を和音で表現し音からのメッセージが伝わるように作曲されている。(楽譜③)
- ・8連符の早いパッセージを用いたり伴奏は多様な形式をとっている。(楽譜④)

つち
The Ground

金子みすゞ 作詩

中田啓直 作曲

♩ = 96 力強く

③ こっつん こっつん ぶたれるつちは
Kot-tsun kot-tsun Bu-ta-le-lu tsu-chi wa

よい はたけに なつて よい むぎう むよ
Yo-i ha-ta-ke ni nat-te Yoi mu-gi u-mu yo

あさからばんまで ふまれるつちは よいみちになつて
A-sa ka-ra ban ma-de fu-ma-le-lu tsu-chi wa Yo-i mi-chi ni nat-te

くるまをとおすよ
Ku-ru-ma o to-o su yo

④ cresc.

② mf ぶたれぬつちは ふまれぬつちは
Bu-ta-le-nu tsu-chi wa Fu-ma-le-nu tsu-chi wa
la tempo

いらぬ つちか
I-ra-nu tsu-chi ka

① やさしく
mf いえいえそれはなのないくさの おやどを
I-e-i-e so-re wa Na no na-i ku-sa no O-ya-do o
すの su no

こっつんこっつん ぶたれるつちは
Kot-tsun kot-tsun Bu-ta-le-lu tsu-chi wa

よい はたけに なつて よい むぎう むよ
Yo-i ha-ta-ke ni nat-te Yoi mu-gi u-mu yo

© 1991 by edition Happy Echo, Tokyo, Japan. International Copyright Secured.
この音楽著作権の所有または一部を権利者に無断で複製（コピー）することは、著作権者の侵害に当たり、著作権法により罰せられます。

• つもった ゆき

うえの ゆき

さむかろな。

つめたい つきが さしている。

したの ゆき

おもかろな。

なんびやくにんも のせていて。

なかの ゆき

さみしかろな。

そらも じべたも みえないで。

- 全体のメロディーは、まるでわらべ唄のように「A」と「H」の音を辿る。余分な音がないだけに言葉から伝わる情景はより神秘的に伝わる。歌の途中で拍子は $\frac{3}{4}$ から $\frac{4}{4}$ に変化を繰り返す。詩のリズムがそのまま曲のリズムになっている。(楽譜①)
- 伴奏は降り積もる「雪」そのものを表現しこの曲のイメージの軸を担っている。音数は2音の移動で少なく、*pp*・*p*で表現される部分にペダルの指示はなく高度なテクニックが求められる。(楽譜②)

つもったゆき
The Piled Up Snow

金子みすゞ 作詞

中田喜直 作曲

♩ = 60 拍

①

②

う え の ゆ き
u e no yu ki

さ ん じ ゃ ん
sa-mu-ka-lo na

つ め た い つ き が さ し て い て
tsu-me-tai tsu-ki ga sa-shi-te i-te

②

し た の ゆ き
shi-ta no yu-ki

お も か ろ な な ん び ゃ く に ん も の せ て い て
o-mo-ka-ro na nan-bya-ku-nin mo no-se-te i-te

な か の ゆ き
na-ka no yu-ki

さ み し か ろ な そ ら も じ べ た も
sa-mi-shi-ka-ro na so-ra mo ji-be-ta mo

み え な い で
mi-e-na-i de

②

© 1991 by edition Happy Echo, Tokyo. All rights reserved. International Copyright Secured.
この楽譜集の全篇または一部を複製または転載して印刷し、販売することは、著作権の侵害にあたります。著作権法により罰せられます。

• わ ら い

それは きれいな ばらいろで
けしつぶよりか ちいさくて
こぼれて つちに おちたとき
※ぱっと はなびらが はじけるように
おおきな はなが ひらくのよ

もしも なみだが こぼれるように
こんな わらいが こぼれたら
どんなに どんなに きれいでしょ

- ・ 緩やかな $\frac{6}{8}$ 拍子からなる、歌曲らしい華やかさのあるメロディーである。※の詩の部分（2小節）のみ転調し、音楽をより色彩的に描いている。（楽譜①）
- ・ 静かなイントロから始まり、音は次第にピアニスティックなパッセージにより音楽はさらに広がりを見せる。後半左手の動きに和音を重ねることで、ピアノでのオーケストラを生み出していく。それはまさに、小さな「わらい」が豊かな波紋となって絵に描かれるように作曲されている。（楽譜②）

わらい
The Laugh

金子みすゞ 作詩

中田喜直 作曲

② $\text{♩} = 48$ 位 静かに美しく

それは きれいな ばらいろで
So-le-wa ki-le-i na ba-la-i-ro

けしつぶよりか ちいさくて
ke-shi-tsu-bu-yo-ri ka chi-i-sa-ku-te

こぼれて つちに おちたとき
ko-bo-le-te tsu-chi-ni o-chi-ta-to-ki

※ぱっと はなびらが はじけるように
pa-tto ha-na-bi-ra-ga ha-ji-ke-ru-you-ni

おおきな はなが ひらくのよ
o-o-ki-na ha-na-ga hi-ra-ku-no-yo

もしも なみだが こぼれるように
mo-shi-mo na-mi-da-ga ko-bo-leru-you-ni

こんな わらいが こぼれたら
kon-na wa-rai-ga ko-bo-re-ta-ra

どんなに どんなに きれいでしょ
don-na-ni don-na-ni ki-re-i-de-sho

よ - もしも なみだ が こぼれる よ
yo - mo-shi-mo na-mi-da ga ko-bo-leru yo

に こ ん な わ ら い が
ni ko-n-na wa-ra-i ga

こぼれたら どんなに
ko-bo-re-ta-ra don-na-ni

どん な に き れ い で し ょ
don-na-ni ki-re-i-de-sho

© 1993 by edition Happy Echo, Tokyo, Japan. International Copyright Secured.
この音楽著作権の全部または一部を無断転載し複製（コピー）することは、著作権者の侵害にあり、著作権法により罰せられます。

・こころ

おかあさまは
 おとなで おおきいけれど
 おかあさまの
 おこころは ちいさい
 だって おかあさまは いいました。
 ちいさい わたしで いっぱいだって
 わたしは こどもで
 ちいさいけれど
 ちいさい わたしの
 こころは おおきい
 だって おおきい おかあさまで
 まだ いっぱいに ならないで
 いろんな ことを おもうから

- ・ 歌に強弱の指示が多く示されている。歌詞の“おおきい” “ちいさい”の表現はメロディーにそのまま生きている。語る要素を大切にしながら歌曲としてのダイナミックな歌唱が存在する。(楽譜①)
- ・ ピアノはあくまで心の機微を音で表現している。言葉と言葉の間におかれた間奏は、話をしているこどもの仕草のようであり、歌唱だけでは表すことのできない部分を巧みに奏でている。(楽譜②)
- ・ 伴奏は細やかな心の動きを表現し、音は語るように作曲されている。

こころ
 Hearts
 金子みすゞ 作詞 中田喜直 作曲

♩ = 80 拍

mp
 O-ka a-sa-ma wa O-to-na de
 O-ka a-sa-ma no O-ko-ko-ro wa chi-i
 O-ki ke-le-do O-ka a-sa-ma de Ma-da ip-pa-i ni na-na-i de
 sa-i dat-te O-ka a-sa-ma wa
 i-i ma-shi-ta Chi-i sa-i wa-ta-shi de ip-pai dat-te

①
 わたしはこどもでちいさいけれど
 Wa-ta-shi wa ko-do-mo de Chi-i sa-i ke-le-do
 ちいさいわたしのこころはちいさい
 Chi-i sa-i wa-ta-shi no Ko-ko-ro wa O-ki-i
 だって ちいさい
 Dat-te chi-i sa-i
 いろんなことをおもうから
 I-ro-na-ko-to o-mo-u-ka-ra
 ②

© 1991 by Allion Happy Echo, Tokyo. Japan International Copyright Society.
 この楽譜の初出は金子みすゞ童謡集(昭和17年)であることは、著作権の侵害にあたり、著作権法により認めらる。

・ほしとたんぼ

あおい おそらの その ふかく
うみの こいしの そのように
よるが くるまで しずんでる
ひるの おほしは めにみえぬ

みえぬけれども あるんだよ
みえぬ ものでも あるんだよ

ちって すがれた たんぼぼの
かわらの すきに だまって
はるの くるまで かくれてる
つよい その ねは めに みえぬ

みえぬけれども あるんだよ
みえぬ ものでも あるんだよ

- ・歌は風が吹くような爽やかなメロディーにのせ、懐かしい歌曲のように作られている。メロディーは一度で心にはいり口ずさみたくなる親しみがある。
- ・伴奏の分散和音は左手・右手それぞれに豊かな響きをもたらしめている。(楽譜①)
- ・ピアノの音は必要以上に多く鳴ることはなく童謡の伴奏のようでもあり、歌のメロディーを包むように支えている。(楽譜②)

ほしとたんぼ

Stars And Dandelions

金子みすゞ 作詩

♩ = 72 位 (自由に)

中田喜直 作曲

1. あお いおそらの その ふかく
A-o i o-so-la no so-ko fu-ka-ku
2. ちっ てすがれた たんぼぼの
Chit-te su-ga-le-ta 7 tan-po-po no

うみの こいしの そのように よるがくるまで
U-mi no ko-i-shi no so-no yo-ni to-ru ga ku-ru ma-de
かわらの すきに だまっ て はるの くるまで
Ka-wa-lano su-ki ni da-mat-te ha-ru no ku-ru ma-de

(小音符は2番の時)

しずん だる ひるのおほしは めにみえぬ
shi-zun - da-ru hi-ru no o-ho-shi wa me ni mi-e-nu
かくれてる つよいそのねは めにみえぬ
ka-ku-le-te-ru Tsu-yo-i so-no ne wa me ni mi-e-nu

みえぬけれども あるんだよ みえぬものでも あるんだよ
Mi-e-nu ke-le-do-mo a-lun-da-yo mi-e-nu mo-no-de-mo a-lun-da-yo

pp 1. 2.

rit.

©1991 by cadence Nagay Edo. Tokyo, Japan. International Copyright Secured.
この音楽著作権の所有または一部を権利者に無断で複製・コピーすることは、著作権者の許可にあり、著作権法により罰せられます。

5. 総括

中田喜直と金子みすゞを結びつけるもの、それは一冊の“日本童謡集”（西條八十編）にある。

中田歌曲、それはこの童謡集の「詩」との出会いが、歌曲作曲家としての原点である。「はじめにあった本」と題するエッセイに⁷⁾「私はこどもの時、本を読むのが大好きで随分沢山読んだ/二つ年上の兄が買ってもらった本がいっぱいあり、読むのも早かったからたくさん読めたのだろう/昭和の初め、興文社と文藝春秋社から“小学生全集”全八十冊が発行され、その全部はなかったようだがイソップ、グリム、アンデルセンの童話から日本の童謡、クオレ、家なき子、小公女等があって世界の名作は殆ど読むことができた。そしてその全集の中の一冊、西條八十編“日本童謡集”上級用が私の生涯のもっとも重要な本になった」と書いている。昭和八年、10歳で始めて作曲をした三木露風詩「静かな日」はこの本にあった「詩」であり、昭和22年、日本歌曲に新しい風を吹かせ作曲家として活躍するもとなった「六つの子どもの歌」の詩もこの「日本童謡集」上級用から選ばれた詩である。戦争時代、生死をともに歩んだ詩の数々は、日本語の流麗さに新鮮なリズムのイメージーションを広げ、歌は日常的な会話のごく自然な音として生まれ変わった。

金子みすゞは大正12年ペンネーム「みすゞ」で童謡を書き、雑誌に投稿をはじめ次々に作品が発表され、大正15年西條八十が渡仏留学から帰国後、童謡詩人会会員に認められ〈お魚〉〈たいりょう〉の二作品が掲載されたのが同会編の「日本童謡集」である。26年という短い生涯から紡ぎ出された金子みすゞの言葉は、60年の時を経て中田喜直の音と結実し、詩人と作曲家のそれぞれが探し求め描き続けてきた童謡歌曲という世界に導かれた。みすゞの詩は童謡詩ではあるが、描かれ

ているものは生死、明暗、喜怒哀楽といった人間の心の表裏を、子どもの純粋な心の声として表現された大人の詩である。（童謡形式の達観詩ともいわれる）童謡を1000曲近く作曲した中田喜直の音楽もまた、シンプルな旋律に童心を潜ませながら崇高なまでに磨きあげられた音の芸術作品である。

「金子みすゞ童謡歌曲」は詩にもメロディーにも、童謡としての心を持った限りなく芸術性の高い歌曲である。かつて「世間のちいさい人たちのために、芸術としての真価ある純麗な童話と童謡を…」と芸術家たちの思いによって築かれた文化は、新たな時代へ引き継がれより新しい日本の文化となり生き続けてきた。童謡歌曲集の美しい言葉と音楽は、日本の心を伝承するための芸術作品なのだ。

〈注〉

- 1) 牛山剛著：夏がくれば思い出す：新潮社：2009：P112～114
- 2) 金子みすゞ“永遠の詩”P120～125
- 3) 土肥みゆき編：中田喜直歌曲の世界：アップル社：1988：P95, 96
- 4) 注1) のP249
- 5) 注2) のP87
- 6) 注1) のP276～P282
- 7) 注1) のP29

〈参考文献〉

歌曲集

・金子みすゞ詩による童謡歌曲集	中田 喜直作曲
“ほしとたんぼぼ”	金子 みすゞ詩
・「六つの子供の歌」	中田 喜直作曲
・「魚とオレンジ」	中田 喜直作曲

- ・「野の花によせて」 中田 喜直作曲
- ・「すばらしき自然とともに」 中田 喜直作曲

著書

- ・夏がくれば思い出す
— 評伝 中田 喜直 牛山 剛著
- ・金子みすゞ“永遠の抒情” 詩と詩論研究会編
- ・金子みすゞ“永遠の詩” 金子みすゞ著
- ・みんなを好きに 金子みすゞ物語 矢崎 節夫著

論文

- ・「中田喜直 歌曲の世界」 土肥みゆき編
- ・「中田喜直 童謡の世界」 大野 恵美編

新聞

- ・朝日新聞 郷土ゆかりのほん (2009.9.8)

中田喜直 “金子みすゞ童謡歌曲集”

The collected songs Yoshinao Nakada of
“Misuzu Kaneko childrens poem”

OHNO Megumi

[abstract]

Yoshinao Nakada composed about 3000 musics in his life. Many musics are cherished for Japanese favorite song. The main issue is considered about the “Star and Dandelion” by Misuzu Kaneko children’s poem. Those musics were composed in Nakada’s later years. I probe into the essence of musics.

[key words]

Nakada Yoshinao, Kaneko Misuzu, Japanese Nursery Rymes

